



SERVICE Above Self



WEEKLY REPORT

OCTOBER.12.2005 No.1329

UEDA EAST

上田東ロータリークラブ

第2600地区 東信第2グループ 創立1978.6.14

会長/関 尚勇 幹事/滝澤修一 会報委員長/後藤正直

例 会：毎週水曜日 午後12:30～1:30

会 場：上田東急イン内 国際クリスタルホール

事務局：上田市天神4-24-1 上田東急イン

TEL 0268-21-3500 FAX 0268-21-3501

U R L : <http://www6.ueda.ne.jp/~uedaeast-rc/>E-mail : uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp

ゲストスピーチ 「街の普遍的な文化に光を当てる」～答えのない“まちおこし”の突破口～

真田創造工房 安藤州平様

1. 普遍の自然現象を文化論に

愛媛県伊予市に開館10周年を迎える「夕日のミュージアム」がある。1992年にディスプレイメーカーの外部ブレンとして企画着手、合併前の旧双海町に1995年オープンした。当初、過疎化対策の活性化事業の一環として、大漁旗や貝の資料館を計画していたが、コンセプトに「夕日の博物学」を据え、歴史、文化、信仰、芸術、自然科学など様々な角度から夕日文化論を編纂し、施設コンテンツとまちおこし策を提案・プロデュースを行った。ミュージアム、レストラン、展望台、砂浜公園、道の駅などの複合施設は、地元建築家が参加し「夕日のまちおこし」拠点施設として完成。以後、様々なまちおこしイベントの舞台となり、その独自性と新しい文化醸成の成功例として1998年、クライアントの双海町が国土庁(現/国土交通省)の「地域づくり全国交流会議鯖江大会」で大会実行委員長賞を受賞した。既に、町民の発案の夕焼けコンサートなどが行われていたが、日頃、見慣れた当たり前な夕焼けが町民の誇りとなった。当時、身近な自然現象でも“まちおこし”が可能と、全国に注目され、信州サンセットポイントの指定等、“夕日ブーム”が広がるきっかけとなった。

2. 街の普遍的な文化に光を当てる

旧双海町や小布施町など“まちおこし”に成功した町では、博物館・美術館が地域文化を受発信するコアを担い、人々の交流の場、育成施設として機能が発揮され、ソフトを生産するプロダクションとなり、生み出された人材とソフトが、また新たな文化を発信する循環装置になっている。これらの企画立案・プロデュースは、地域の自然・歴史・文化を集大成した県誌、市町村誌の執筆編纂行為と類似しており、取材・編集が基本となる。異なるのは、展示やイベントなどのコンテンツとして、地域住民

の文化醸成に活用できるよう、取材した素材を人々が興味を惹くようにヒューマン・ドキュメントなどに料理することだ。柔軟な体勢で取材を積み重ね、多くの素材を集め、文化的キーワードで編集し、街の普遍的な文化を見出すのである。

3. 街がプロダクションを持つ

文化施設と出版物を生み出す作業には類似性がある。簡単なものでも自らが出版することで、「街がプロダクションを持つ」が可能となることを意味する。この観点から、昨年、松尾町商店会の活性化勉強会で、フリーペーパー事業の立ち上げを問い掛けた。生まれ育った町の商店街を改めて考える機会は少ない。また、地方都市独特のコンプレックスであきらかに近い感覚を持つ。商店会は「時代に疎い」と消費者に誤解されがちだが、消費者とのコミュニケーション不足や硬直化が原因の場合が多い。フリーペーパーという新たなコミュニケーション手段は消費者との架け橋になる。不慣れではあっても現場取材し編集作業に携わることで、商店会の現状を冷静に見ることが出来る。小さな試みだが、街がプロダクションを持つのである。

4. 商店街は文化そのもの

歴史ある専門店、商品、サービス、街、暮らしなどの物語の宝庫だ。好景気、不景気を乗り越えてきた店主の歩みは、人間味溢れるストーリーの題材となる。専門店の商品やサービスの深い知識は消費者にとっても財産だ。これらを文化が感じられる誌面にし、量販店とは違った「暮らしの知恵」を発信する。また、消費者や読者参加型の企画を取り入れ、生の声取材することで、商店会活性化策のヒントを拾い、協働のイベントも可能だ。取材、編集作業は商店会員も参加するワークショップで行い、個店間の交流を図りながら次代の人材を育成していく。号を重ねていけば、様々な文化面から検証した商店会のアーカイブとなり、街の普遍的な文化を探し出すよすがとなり、必ず商店会活性化のベースとなるのである。